

## 誰のために生きるのか

加藤 享

### [聖書]ローマの信徒への手紙14章7～9節

わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きていられる人にも主となられるためです。

### [序] 命(ぬち)どう宝の日

今日は日本が大敗北した太平洋戦争の末期に、敵味方合わせて**24万人余の戦死者**を出した沖縄での激戦を記憶に留める「**命(ぬち)どう宝の日**」(6月23日)のアピールを福田姉がして下さいました。1945年3月から6月にかけての**連合軍沖縄上陸作戦**では、日本軍の激しい抵抗で米軍だけでも死傷者86000人も出しました。そこで日本本土に上陸して全土を占領するには、莫大な死傷者を出すことを自覚したアメリカは、**交渉による戦争終結**を決意するに至ったと言われています。また日本側も、本土決戦を強硬に主張する陸軍を抑えて、本土を徹底的破壊から守るために、**無条件降伏を受託**するに至ったのでした。

沖縄県民の四分の一を失った**沖縄の犠牲**によって、本土に暮す私たちは救われたのでした。そしてこの構造は72年たった今日でも変わりません。日本に駐在する**米軍基地の75%**が小さな沖縄に集中していて、県民の平和な生活がいまなお脅かされているのです。戦争を放棄した憲法のシンボルとして、中国に面する東シナ海に位置する日本列島の南端沖縄を、**基地の無い平和のシンボル**にすることこそ、世界平和を願う私たち国民の責任ではないでしょうか。

### [1] 心の一致を求めて

さて私たちは、様々な**食べ物の溢れる社会**に暮して居ります。これも世界の多くの人が、飢えに苦しんでいることを考えると、本当に申し訳ないことです。でも朝の新聞にはさまれて配達される広告をご覧ください。食品の広告が一杯です。**家族団らん**も美味しい**食卓**で生まれます。**仕事や付き合い**も、食事を共にすることが欠かせません。そこで飲み食いの趣向が同じ者同士が、心を通わす仲間になっていくのではないのでしょうか。

教会でも、礼拝の後でプログラムがある時には、おにぎりやパンだけでなく、**手造りのおかず**を持ち寄って下さることで、テーブルが盛り上がり、**交わり**が豊かにされます。私などは好き嫌いがなく何でも美味しいですが、人によっては味付けや好みが異なるので、時には**遠慮のない言葉**がポロツと出て、作った人を傷つけてしまうことも生じます。

**ローマの教会**では、ユダヤ人、ローマ人、ギリシャ人等の人種の違い、宗教的背景の違いもあつ

て、**食べ物**を巡っても、互いに相手を批判し合う**不一致**が生じていたようです。そこでパウロはこう助言しています。「**神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。**」(11節)。「だから平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。**食べ物のために神の働きを無にしてはなりません**」(19.~20.節)。本当にそうですね。

愛餐会も教会の交わりにとって大事ですが、教会にとって**一番大事なのは、心の交わり**の一致です。その一致はどの様にして得られるかを、今日はしっかり受け取ることにいたしましょう。その**鍵**になる言葉が、8節「**従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のもの**」です。

## [2] 生き死にを自分で決める誤り

私たちは、皆生きています。今日も健康を与えられて、このように教会の礼拝に出席できています。でも例外なしに私たちは皆、何時かは**死んで**、この世を去っていくのです。**何を目的として、今生きているのでしょうか？ また死ぬ時に、どのような思いで死ぬのでしょうか？**

我が子の成長のために一生懸命に生きて来た**母親**が、子どもが出て行ってしまった後で、空しい思いに襲われて、**生きる気力を失ってしまった**という話をよく聞きます。仕事・仕事と**仕事に打ち込んできた人**が、その仕事を失うことで、生きる気力を失ってしまったという話もよく聞きます。その時に私たちは、どの様に助言しているのでしょうか。

もっと**大きな目標**を持つてと言うのでしょうか。私は戦争中の教育を受けて育ちました。**国のために、天皇のために**命を捧げて戦場に行き、立派に戦死して靖国神社に祀られよと教えられました。それが親孝行の道だと言われました。しかしその結果、**他国の無数の人々の命を奪い苦しめた**のでした。そして**敗戦の結果を反省し、武力をもって平和を維持しないと決意したはず**です。

今日の社会情勢を見ても、また自分自身の歩みを見ても、結局**自分中心の思い**を動機として生きていては、**良い社会**は生まれなし、また**人間**という字が表わしているように、互いに**支え合**って皆と共に生きていく存在になることは出来ない、ということがはっきり示されてきているのではないのでしょうか。

私は去る15日に恵泉教会で行われたシンガポール国際日本語教会(IJCS)の同窓会に参加し、急いで帰宅の途につきました。ところが東上線**ふじみ野駅**近辺の踏切で**人身事故**が発生し、警察の現場検証に時間がかかり、満員電車の中で2時間立ったまま志木駅で待たされ、疲れ切って6時過ぎに帰宅しました。

遮断機のある踏切での事故ですから**自殺**ではないのでしょうか。どんなに悩んだ末での自殺だとしても、**大勢の人**にこんなにひどい迷惑や苦しみをかけなくても良いのにと、腹が立ちました。この人は決して安らかな死を得られず、もっと苦しみ続けるのではないのでしょうか。

また昨年7月に神奈川県相模原の津久井やまゆり園で26才の職員が重度知的障害者44人を死傷させた事件が発生しましたね。「障害者なんかいらぬ。一緒に殺さないか」と友人を誘っていたそうです。「お前のような人間は生きる値打ちがない。死ね」と決めつける権限を、彼は誰から与えられたのでしょうか。彼はどうしてそのようなささやきを、心に聞きとったのでしょうか？このように、自分の命だから自分で決めて生きていく、死んでいく、他人の命までも決めてしまう——そこでは、自分ばかりか他の人をも苦しませる罪が生じるばかりではないでしょうか。

### [3] 私は主のもの

そこでパウロは、ローマ教会の人々に「わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません」とはっきりと言い切っています。ではどのように生きようとするべきでしょうか？

「わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです」とパウロは言います。では、主イエス・キリストのために生きる、主イエス・キリストのために死ぬとは、どういうことなのでしょう。或る人は、「イエスさまならばどうなさるかな」とよく祈って御心を聞き取って生きていく、死んでいくことだと語っていました。

そうですね。「さて、どうしたら良いだろうか」と自分の持ち合わせている思慮分別を総動員して良い選択をしようとするのではなく、「イエスさま、貴方ならばどうなさいますか。どうぞ御心をお示し下さい」と祈っていくことですね。そのために聖書を読みながら祈るのです。その姿をパウロは「それが主イエスのものとされている信仰者の姿だよ」と言っているのです。

全宇宙の万物を創造し、永遠に支配しておられる神を私たちに示すために、神は私たちと同じ人間の姿をとってこの世に来て下さいました。それがナザレのイエスです。主イエスはおっしゃいました。「私を見た者は父を見たのである」では主イエスの生涯の何処に最もよく真の神を現わして居られるのでしょうか。それが十字架の死と復活です。

では神はどのようにしてキリストを十字架に架けることをよしとされたのでしょうか。それは神がキリストを十字架に架けることによって、私たち全ての人間の罪を処罰なさったからです。この世の法律でも、無実の人が裁判で有罪とされ処罰されますと、後で真犯人が現れても、彼はもはや処罰されません。彼の罪に対する処刑は終了しているからです。

こうして主イエスの十字架の死に、神の赦しの宣告「わたしはあなたの犯した罪の一切を十字架で処罰した。あなたはもう赦されている」という神の宣告を聞き取り、悔い改めて神の許に帰って来ようにと、私たちは呼びかけられているのです。

パウロ自身も7章で告白しているように、善をなそうとする自分と罪の奴隷になっている自分が葛藤して、悪に負けてしまう惨めな自分の中には、死と滅びこそあれ、互いに愛し合い、助け合っ

人生を全うする喜びの展望はありません。しかし神の救いの招きに応えれば、変わってくるのです。

また、イエス・キリストは十字架で息を引き取り、死者として墓に葬られました。しかし神は彼を復活させて、ご自分が、死を生に変える神であることを現わされました。パウロは言っています。「もしイエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてください(ローマ8:11)。死を生に変える神の霊即ち聖霊の働きが、私たちの内面の死を生に変えて下さるのです。

ですから私たちは、パウロが言うように、自分の体を神に喜ばれる聖なる生ける供え物として神に献げて、礼拝するのです。そして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかを、わきまえるようになっていこうとするのです。

こうして私たちは、最早自分の考えでどう生きていこうか、自分の考えでどう死んでいこうかを考えません。生きるにしても、死ぬにしても、主のために生き、主のために死ぬのです。生きるにしても死ぬにしても、私たちは最早、救い主イエスのもの、私のものではないのです。

#### [結] 信仰による愛の一致を

教会ほど種々雑多な人間の集団はありません。小学校なら6才から12才の子ども達の集団です。会社ならばその会社の収益に貢献する人材として選別された人々の集団です。趣味のグループは趣味や技能を同じくする人の集団です。

しかし教会は、イエス・キリストを救い主と信じて告白する者は、老若男女、国籍、学歴、能力、趣味、貧富等の一切を問わず、教会員として迎えられます。ですから、これほどまとまり難い集団はありません。各自の身に着けている様々な人間的相違が、ぶつかり合って争いが生じて当然の集団です。一致の唯一の根拠といえば、イエス・キリストを教会の頭、救い主と信じる信仰のみです。

ですからパウロは、ローマ教会に対して、一致の唯一の基盤を語っているのです。「わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。わたしたちは、生きるかすれば主のために生き、死ぬかすれば主のために死ぬのです。」

キリストは、自分と違うものを持つ人、気の合わない人と仲良く出来ない私のその罪を、ご自分で引き受けて十字架にかかり、贖って下さっていました。同時に私が愛せないその人の罪のためにも死んで下さっているのです。ですからその人を愛するキリストの愛を私も頂くことによって、私の心にも、その人を私の兄弟姉妹として愛するようにして下さい。こうして私は主のために生き、主のために死ぬことが出来るように、変えられていくのです。

主は「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ15:13)とおっしゃ

いました。こんな私のために、十字架に死んで下さった**大きな愛**を頂くことによって、私たちも愛せない友を**愛せる**ようにして頂こうではありませんか。なかなか愛せない人と共に生きなければならなくなったら、その時こそ、**十字架の主イエス**に祈り求めて、愛をいただこうとしましょう。そして、**主のもの**とされた者同士の交わりを打ち建てて参りましょう。私たちの教会を、主イエスを愛する**愛の満たされた教会**にして参りましょう。

祈ります：イエスとなってこの世にご自身を現し、十字架の死をもって、私たちの罪を贖う愛を、私たち全ての者に注いで下さった神さま。あなたを心から崇め、賛美します。あなたは主を墓の中から復活させて、死を生に変えるお方であることを、お示し下さいました。そして、そのあなたの**霊・聖霊**を、主を信じる者にお与えくださいました。どうか**聖霊の導き**を頂きながら、あなたの御心を尋ねつつ、互いに愛し合って生きていく者にして下さい。また罪を赦されつつ、愛し合って生きた喜びを感謝しながら、終わりの日に天の御国に迎えられる希望を抱いて死の眠りにつく者にして下さい。私たちの川越教会の交わりを祝して下さいますように。沖縄に平和をお与えください。戦争を止めさせてください。救い主イエス・キリストの御名によって、お祈りします。

アーメン